

Bangladesh の環境/コミュニティ開発系 NGO へのボランティア協力 (CSR 活動)

2013年2月7日弊社の代表取締役社長土居が Bangladesh の環境/コミュニティ開発系の NGO Bangladesh POUISH (Bangladesh POUISH) によりオーガナイズされたセミナー (International Seminar on Community Capacity Building on Ecosystem based Biodiversity Conservation) のゲストスピーカーとしてこれまでインテムが JICA プロジェクトの中で取り組んできた農民間研修の成果を発表した。

Bangladesh POUISH は土居が日本で参加している NGO ラムサールセンター (RCJ) と 20 年来の交流があり、現在 RCJ は POUISH と連携して 2 つの沿岸環境保全プロジェクトを推進している。いずれも Bangladesh 南部の中核都市コックスバザール周辺の島嶼部における参加型のマングローブ植林と住民のエンパワーメント支援にかかるプロジェクトである (下表)。

プロジェクト名	期間	主な資金源
モヘシュカリ島沿岸における住民参加型の生態系アプローチ適応プログラム事業	2011-13年 (3年間)	(独) 環境再生保全機構の JFGE
Bangladesh 国ドルガタ島の住民参加による沿岸生物多様性保全事業	2013年2月から2年間	トヨタ環境活動助成プログラム

今回のセミナーのあと、土居は POUISH および RCJ のメンバーとともに両プロジェクトのサイトを訪問し、プロジェクト運営や技術面でいくつかのアドバイスをおこなった。インテムとしては今後とも可能な範囲でこのような CSR 活動も展開して行きたいと考えている。



セミナーで発表する土居社長



ドルガタ島の干潮域 (おそらくはマングローブ帯で覆われていた) は今ではほとんど塩田+エビ養殖池として開発されている。また今でもマングローブは住民により伐採されている。